

はじめに

政府開発援助（ODA）をより効果的・効率的なものとするため、政府は様々な改革を行っております。近年では、2008年10月に有償資金協力、技術協力及び無償資金協力を一元化して実施する新しいJICA（国際協力機構）が誕生しました。また、2009年7月には外務省国際協力局の機構改革を行いました。さらに、2010年はじめには、外務省は岡田外務大臣の指示のもと、ODAのあり方に関する検討を開始し、①国際協力の理念・基本方針、②援助の効率的・効果的实施、③多様な関係者との連携、④国民の理解・支持の促進、⑤JICAという5つの論点を中心に議論を重ね、その結果を2010年6月に発表しました。

このODAのあり方に関する検討においては、ODA評価について、ODA評価の体制を強化し、過去の教訓を今後の援助に着実に反映できるよう努めるとともに、評価手法を研究し、わかりやすい評価を実施することとしています。ODA評価はより質の高いODAを実施する上で重要な役割を果たしており、外務省ではODAの評価を充実させるべく日々努力を重ねています。また、国民の皆様に対する説明責任を果たし、より広くODAを理解してもらうためにも、評価は重要であると強く認識しております。

外務省では、評価の客観性・透明性を確保するため、外部の有識者に依頼して第三者評価を実施しております。こうした評価により得られた提言は、ODAの政策策定や実施の改善に役立てています。

今回の報告書では、2009年度に外務省、関係府省庁及びJICAがそれぞれ実施したODA評価活動の概要を紹介しています。本報告書により、国民の皆様が日本のODA及びその評価に対する理解を一層深めて頂ければ幸いです。

この報告書の内容は、速やかに外務省ホームページ（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/kaikaku/hyoka.html>）に掲載する予定です。なお、本報告書に掲載しております2009年度実施のODA第三者評価の個別の報告書についても、全文及び概要を外務省ホームページに掲載しております。是非ご覧頂くとともに、ODA評価に関するご質問・ご意見などがございましたら、ODAホームページの「ご意見・ご質問」のコーナー（<https://www3.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/iken/>）にてお聞かせ下さい。

2010年12月

国際協力局長 佐渡島 志郎

表紙写真説明

「インド国別評価」（「コルカタ廃棄物管理改善事業」：廃棄物の分別に向けた住民への啓発活動の様子）

地域住民の生活・衛生環境の改善と環境保全を目的として行われている「コルカタ廃棄物管理改善事業」は、インド東部西ベンガル州コルカタ都市圏の6市において、衛生的な最終処分場建設を含む持続可能な廃棄物広域処理システムを整備することにより、同地域で発生する廃棄物の適切な処理の促進を図るために実施されています。

従来家庭ごみを分別する習慣のないインドにおいて、地域住民から構成される指導員（ソーシャルモビライザー）を動員して、各家庭を回り分別方法について説明を行ったり、集会を開催するなど、ごみの分別習慣を根付かせるために草の根レベルでの啓発活動が進められています。

これらの活動が根付くことで地域の衛生状態が大きく改善することが期待されています。



廃棄物の分別を行う廃棄物回収車